

わだいの特選

カメラルポ

社 第54回成人のつどい 社会に羽ばたけ！ 新成人



1月10日、『第54回成人のつどい』が開催されました。今年の成人のつどいの出席者は、初めて参加者全員が平成生まれになり、式典の最後には「平成生まれ万歳」と書かれたくす玉が割られました。

こうした企画は全て新成人が自ら企画・運営委員となって行ったもので、今年度は14人の委員が、思い出の写真の上映や、恩師への花束、手紙の贈呈など、心温まる企画を準備しました。

式典が終わった後も、新成人たちは名残惜しうに、同級生たちとおしゃべりをしたり、舞台上のくす玉や看板の前で記念撮影をしていました。

福 保育園の豆まき よ来い！ 春よ来い！

2月3日、節分の日に町立保育園で豆まきが行われました。鬼が教室に入ってくると、怖くて泣き出してしまう子や、一生懸命豆をまく子と様ざまでしたが、豆まきが終わるとみんなで仲良く、豆を食べました。1年に1回の恒例行事ですが、参加した子ども達にとって、とても楽しい思い出になったことでしょう。



▲上町保育園の豆まき

私 消防団出初式 たちの町を守るために

1月10日、越生町中央公民館で出初式が行われました。毛呂山町、鳩山町、越生町の消防団員が参加し、管理者などによる閲団や機械器具点検、防災航空隊の上空広報などが行われました。

この日は、消防車に乗ることができたり、消防団員が手作りした焼きそばや豚汁の無料配布なども行われ、会場は親子連れなどでにぎわいました。

消防団は今年も地域住民が安心して暮らせるように厳しい訓練に励みます。



お 冬の遊び会 いしくて、楽しくて！



1月16日、青少年相談員による『冬の遊び会』が開催されました。お兄さん、お姉さんに手伝ってもらいながら、子どもたちは、まずマドレーヌとカレーライス作りに挑戦しました。皆で材料を切ったり、計ったりしながら、一生懸命作った料理は、とてもおいしくできて、お昼の時間は笑顔と笑い声がこぼれました。

お腹がいっぱいになった後は、出雲伊波比神社で「ドロケイ」や「だるまさんが転んだ」などをして遊び、冬の寒さを忘れる楽しい一日になりました。

子ども達に夢を与えられる選手になりたい！

武藤 祐太さん (Honda硬式野球部所属)

全国大会デビュー

平成21年11月18日、日本選手権で武藤さんは、京セラドーム大阪のマウンドに立った。Honda硬式野球部に入部して初めての全国大会の舞台である。「先発を伝えられた時はすごく緊張したのですが、いざマウンドに立つと不思議と緊張はありませんでした。普通に投げれば打たれないんだって自然と思えました」。結果は、9回1失点の完投勝利。堂々とした全国大会デビューであった。



武藤 祐太さん

毛呂山小・中学校、飯能南高等学校を卒業後、平成20年Honda硬式野球部に入部
投手／右投げ右打ち
09日本選手権優秀賞獲得
09社会人野球埼玉県野球協会新人賞獲得
Honda硬式野球部2009年の主な成績
第80回都市対抗野球大会優勝
第36回日本選手権大会準優勝

とっては全国大会の雰囲気を感じるいい経験になったという。

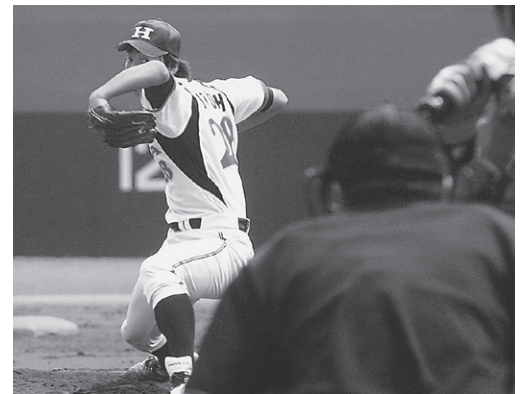
心の成長

武藤さんが野球を始めたのは小学6年生であった。最初は投手、中学生のころは内野手、そして高校に入学してから本格的に投手に専念した。しかし、1、2年生のころには試合で勝てなかった。「当時は、自分が投げているときに野手がエラーをすると、顔に出してしまったり、負けている試合はすぐにあきらめてしまったりしたんです」。2年の夏の大会が終わったときに監督から練習をすること、ボールに触ることを禁じられた。そのかわりに自分の心を磨くことを目的にトイレの掃除と

学校の周りの清掃活動を命じられた。「そのときは、本当に辛かったです。野球をやめたいとも思いました。でもやめられなかった。やっぱり野球が好きなんです」。監督の意図は的中した。「この時、野球から離れてみて、野球は一人でも何よりのチームメイトと協力しないと勝つことはできないということがわかりました」。この心の成長があったことで3年生のときには、埼玉県大会のベスト16まで進出することができた。「野球をやっていて今までで一番嬉しかったことですね」と笑顔で当時を振り返る。

「感謝」の気持ち

「今年の目標は、都市対抗野球の連覇です。そして主要な大会には全部投げるつもりで頑張ります」と力強く語ってくれた。そのために連投に耐えられる体作りをしていくそうだ。「野球の練習は、自分のためだから苦しくないんです。野球ができません」。野球をとおして学んだ多くのことが人間的な成長につながっ



力投する武藤投手

ている。「同僚の先輩投手のように人間的に皆から慕われる選手になることが目標なんです。言葉には出さなけれど自分の投げている姿で皆を引っ張れる投手になりたいです」と強く語る。「今、野球ができるのは支えてくれた皆さんがいてくれたからです。そんな周りの人やチームメイト、チームのスタッフ、会社の人、全ての皆さんに感謝の気持ちを忘れずに野球に取り組んでいきたいと思っています」。常に感謝の気持ちを持ってマウンドに立っている。「将来の夢は、プロ野球選手になって野球をする全ての子ども達に夢を与えられるような選手になることなんです」。今年も武藤さんの熱い思いが込められた速球は、キャッチャーミット目がけて投げ込まれる。